

6年 外国語科学習指導略案

岸和田市立城東小学校

指導者 伊藤 輝彦

令和 8 年 9 月 30 日

第5時限 13:40~14:25

場所 第6学年2組教室

1. 単元名

「思い出を伝えよう～海外の友だちに届けよう!ぼくらの「日本の夏休み PR～」

(使用図書は、教科書: Crown Jr. 三省堂 P40~P63)

2. 単元のねらい

本単元は、教科書の Lesson 3 (出来事: I went to..., I ate... 等の過去の行動表現) と Lesson 4 (感想・状態: It was...) を統合した全 8 時間の短縮・発展構成である。児童にとって身近な「夏休みの思い出」を題材としながら、単なる事実の羅列にとどまらず、感想や思いを添えて豊かに表現する力を育むのに適した教材である。

本学級の児童は、これまで外国語活動・外国語科を通して既習表現を使い場面に合った内容に合わせて文を作ることができている。一方で、自分の伝えたいことを一方的に発信する傾向があり、「聞き手がどう感じるか」「どんな情報なら相手に興味を持ってもらえるか」といった相手意識を持ってコミュニケーションや発表の内容を構成することに課題が見られる。本単元で培う「何をしたか+どうだったか」の表現構造は、将来的に自校の思い出を新 1 年生等へ発信する Lesson 5 (学校の思い出) への重要なステップ(表現のストック)となる。児童の相手意識の薄さを克服し、主体的な言語活動を実現するために、以下の手立てを講じる。

【相手意識を生む場面設定と情報の比較・分析】

単に自分の夏休みを語るのではなく、「オーストラリア(季節が反対の冬)」や「フィンランド(気候の違い)」など、海外の相手に日本の夏休みを紹介する場面を設定する。タブレット等を活用して相手国の「気候・季節・文化・スポーツ・食べ物」の情報を収集させ、日本の夏休みとの相違点・類似点を分析させる。

【情報活用能力(ICT)を活かした思考・表現の可視化】

従来の紙媒体での作業では情報の選別やレイアウトに多大な時間と手間がかかっていたが、ICT を活用することでクラス全体の夏休みデータや語彙を効率よく「収集・整理・マッピング(並び替え)」させる。苦手な児童も「単語カードのパズル化」感覚で直感的に文章の骨組みを作ることができる。

【安心して発信できる録音・録画機能の活用】

スピーキングや発表に不安を感じる児童に対し、タブレットの録音・録画機能を活用させる。セルフチェックや撮り直しを重ねることで、安心して「話すこと[発表]」に取り組ませ、人前で話すハードルを下げる。

3. 単元の指導計画(全時間)

時	学習活動
1	Lesson 3 導入(行った場所・したこと) 内容: I went to... / I ate... / I saw... 等の過去の行動を表す動詞の音声に慣れ親しむ。 活動: 自分の夏休みに行った場所や食べたものを思い出し、単語・フレーズのインプットを行う
2	Lesson 3 展開(クラスの夏休みデータ収集) 内容: 自分の夏休み(I enjoyed... 等)をワークシートやタブレットに整理する。 活動: クラス全体の夏休み情報を集め、「みんながどんな夏休みを過ごしたか」のデータベース(選択肢)を作る。特に過去形ではどんな英語が使えるかまとめる。
3	Lesson 4 導入(感想・様子の表現) 内容: It was (fun / exciting / beautiful). の表現を扱い、出来事に気持ちを足す練習をする。 活動: 相手に「楽しさ」や「様子」を伝えるための感想形容詞をインプット・発音練習する。
4	相手国の情報収集と相違点の発見(情報活用) 内容: 紹介したい国(例: オーストラリア、フィンランド、W 杯出場国等)の「気候・季節・文化・食べ物」をタブレット等で調べる。 活動: 「相手の国は今どんな季節?」「どんな文化がある?」を整理し、日本との共通点・違いを分析する。ベン図を使用する。
5	相手意識を持った「夏休み紹介」の企画・選択(情報分析) 内容: 集めたクラスの夏休みデータの中から、「この国の人にはこれが興味あるだろう」という日本の夏休み(例: かき氷、虫捕り、プール)を吟味・選択する。 活動: 「相手国の特徴」×「日本の夏休み」×「感想(It was...)」を掛け合わせた紹介文の骨組みを作る。
6 (本 時)	音声動画・カード原稿の作成とスピーキング練習 内容: We ate shaved ice. It was very delicious! のように、1~2 文でまとめた紹介原稿を作成・練習する。 活動: タブレットの録音・録画機能を活用し、自分の発音やセルフチェック(評価)を行いながら練習する。
7	音声動画・カード原稿の作成とスピーキング練習 さらに S ランクに近づくように自分の発音やセルフチェック(評価)を行いながら吟味する。
8	単元のふりかえり・Lesson 5 への接続 内容: 表現のまとめ、パフォーマンス評価、自己評価を行う。 活動: 「次は『6 年間の学校の思い出』を新 1 年生(下級生)や中学校に伝えるぞ!」と Lesson 5 (学校の思い出)への意欲につなげる。

4. 本時について

(1) 目標

「思い出を伝えよう。～海外の友達に届けよう!ぼくらの『日本の夏休み PR』～」

(2) 判断基準

S(十分に満足できる)	A(満足できる)	B(努力を要する)
夏休みの思い出を外国語で伝える。相手の国の文化や背景を考え、相手の興味に合うように文章を構成する。さらに、伝え合うことを意識して文章を構成する。	夏休みの思い出を外国語で伝える。どのようなことを相手に伝えるとよいか考え、工夫して思い出を紹介している。	夏休みの思い出を外国語で伝えることができていない。 →声かけをしたり、他者参照を行わせたり、指導者の後に続けて発音できるようにする。

(3) 本時の情報活用能力のねらいについて

- ・共有ノート(ロイロ)に情報収集したことを整理分析しながら外国語の文章を作成する。
- ・相手の興味に合っているか考えて動画を撮る。

(4) 学習の手引き

【学習課題】

「思い出を伝えよう～海外の友だちに届けよう!ぼくらの『日本の夏休み PR』～」

S:聞く相手が「自分も話したい!」を引き出すために、質問などの工夫をして紹介できる。

A:聞く相手の興味や背景を考えて「日本の夏休み楽しそう!」と思える内容を選んで紹介できる。

課題設定

夏休みを紹介するために必要なことは何?

情報収集

紹介したい国の文化や気候を考えて、必要な情報を収集する。

整理分析

思い出を伝えたい相手の国を多面的に見る

食べ物や文化、スポーツなど、項目に合わせて分類する

集めた言語材料を組み合わせ、相手を考えて文章を順序立てる

表現発信

ロイロノートにまとめ、音声を吹き込む。

(5) 学習過程

時	学習活動	主な発問(○)と 予想される児童の反応(●)
5 分 10 分	◎Greeting ◎Small talk →What did you do? I ate～.を使い、思い出 を表す英語表現を練習 する。	●A:What did you do? B:I ate shaved ice. A:What did you do? B:I enjoyed swimming. ○いままで学習した内容を振り返る。
25分	◎Lesson ◎Activity	○ループリックを再度確認しましょう。 ○聞く相手の興味や背景を考えて「日本の夏休み楽しそう!」と 思える内容を選んで紹介する文章を整理・分析して文を作ろう。 ○読み方のわからないものは、Google で検索したり、ALT に質問したりして情報収集しよう。 ○A ランクを目指しながら、さらに S ランクに到達できるよう に、S ランクの中身を自分なりに読み解こう。 ●Do you like～?を使うと相手に答えてもらえる。 ●What did you do?と話すと相手からも聞ける。 ●イラストや写真を使うと相手にはさらに伝わる。 ○音声を吹き込み、S に近づくように自分の夏休みの思い 出をレベルアップさせよう。
5 分	◎Review →今日の振り返り ◎Greeting	○整理分析の内容に照らし合わせて学習方法(多面的に 見る、分類する、順序立てる)と、学習内容(相手のことを考 えてどんなことを工夫したか)を振り返る。